

植物由来原料のSB開発

農業資材などで本格販売へ

アクシス

不織布製品を販売するアクシス(東京都千代田区)は、植物由来樹脂を原料とする「バイオマ」を開発した。生分解性を持ち、一緒に廃棄することが可能。耐熱性や柔らかな風合いも特徴だ。農業資材

用途などを中心に2020年度(21年3月期)から本格販売に入る。土中で分解される生分解性プラスチックのポリブチレンサクシネート(PBS)を原料とするが、今回開発したSBはPBSの約50%が植物由来。有機資源由来物質を



バイオPBSBを使ったバッグ

所定量以上含むバイオマプラスチック製品を識別するための「バイオマ」の認証も取得している。タイの石油会社と日本の化学メーカーの合弁会社(タイ)からバイオPBSの供給を受け、兄弟会社であるアドバンス・

ノンウーブン・ベトナム(ベトナム・ダノン)でSBを製造する。アクシスによると「バイオPBSの生産量は年間2万ト。フィルム用などが主体で、ファイバー(SB)用は少ない」と言う。

バイオPBSB

は30℃の土の中で分解し、そのスピードも速い。ポリプロピレン(PP)と比べると価格は高くなるが、ソフトな風合いや耐熱性(120℃以上)、ヒートシール性は遜色がない。ポリ乳酸樹脂を使ったSBと比較すると生分解性の速度や風合い、耐熱性(60℃以下)に優れている。

大手百貨店5社2月販売

新型コロナウイルスで大幅減収

インバウンド5〜7割減

大手百貨店5社の2月売上速報(既存店ベース)によると、それぞれ前年実績を割り込んだ。そのうち西武を除く4社で2桁%の減収。新型コロナウイルスの感染拡大の不安による入店客数減が響いている。特に60代以上の高齢者や子連れファミリーの来店減少が目立つ(阪急阪神)との声も出ている。「バレンタインデーやワインなどターゲットが明確で店頭でしか体験できない企画への反響は高

大手百貨店5社の売上高
前年同月比増減率(速報値)
(単位は%、▲はマイナス)

	2月	1月
三越伊勢丹	▲15.3	▲3.5
高島屋	▲12.4	▲2.7
そごう・西武	▲6.5	▲3.6
大丸松坂屋	▲17.9	▲4.9
阪急阪神	▲14.3	▲1.8

※既存店ベース

ど高額品は前年売り上げを確保(そごう・西武)など、堅調な動きはポイントにとどまった。インバウンドは春節休暇が1月にずれ込んだことに加え、新型コロナウイルスの影響で訪日客が大幅に減少し、大丸松坂屋75%減、高島屋69.9%減、阪急阪神68%減、そごう・西武約5割減など大きく落ち込んだ。店舗別では、三越銀座店36.2%減、高島屋大阪店25.6%減、大丸心齋橋店45.5%減、同梅田店22.3%減など、2割を超える落ち込みは大都市の大型店が目立った。3月は各社で営業時間短縮や臨時休業日を設けるなどしており、引き続き新型コロナウイルスの影響は避けられそうにない。

ZOZO靴の専門モール「ゾゾシューズ」開設

ファッション通販サイト「ゾゾタウン」を運営するZOZOは4日、新たにサービスを開始した。靴の専門モール「ゾゾシューズ」のプレゼンテーションを実施した。2月27日にサービスを開始したアプリで足のサイズを自動計測する「ゾゾマッ

ベンベルグの時代

サステ機運を追い風に

デビスが旭化成のキュプラ繊維「ベンベルグ」を取り扱い始めて30年強。ファイナル加工を施

特にエコロジー、サステイナビリティ(持続可能性)の意識が高まる中で、ベンベルグの販売量が増えている。同社は2020年に環境配慮型素材比率を20%に掲げて

性」が中東市場でも生きるから。3年前から開拓に着手。今ではアウター用と同じ生機を使った商品が定番的に売れている。それもトップなど民



る」と強調。長年、ベンベルグを扱